

## 開会のご挨拶



### 木村 容子 先生

東京女子医科大学 東洋医学研究所

お茶の水女子大学を卒業後、中央官庁入省 (国家公務員1種)

英国Oxford大学大学院 修士課程修了

2000年 東海大学医学部 (学士入学) 卒業

2002年 東京女子医科大学附属東洋医学研究所 助教

2007年 同研究所 講師

2008年 同研究所 副所長

2010年 同研究所 准教授

本シンポジウムは、寺澤捷年先生、後山尚久先生と歴代コーディネーターが掲げてこられた「こんな時には漢方を」の基本コンセプトを継承しつつ、「漢方エキス製剤の上手な使い方～困ったときの この一手～」と題し、新たな目線で現代医療へ漢方エキス製剤を取り入れる実践的な方法を、エキスパートの先生方によるディスカッションをとおしてご提案したいと考えております。

今回は、小児科、婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚科、腎臓内科・漢方診療科、心療内科・精神科の先生方にご登壇いただき、それぞれの領域における漢方治療の実際についてご紹介いただきます。

第一部では、「困ったときの この一手」として、西洋医学だけでは十分に把握できなかった病態や治療に難渋していた疾患の治療に、漢方エキス製剤を取り入れることによって、より優れた効果や高い満足度が得られた具体例をご提示いただき、日常診療における漢方療法の取り入れ方、すなわち漢方エキス製剤の上手な使い方について考えます。

第二部では、各診療科で幅広く使用されている桂枝茯苓丸と加味逍遙散を取り上げ、各領域での使用経験や有効例をとおして処方臨床応用、さらには使用目標、すなわち現代の“口訣”を考えます。この2処方はいずれも、瘀血の病態を中心に幅広く用いられており、今後ますます西洋医学との融合が注目され有用性が増していくと予想される処方です。各先生方が患者さんを診療するときの頭の中でめぐらせている考えを、できる限り具現化し皆様にわかりやすくお示しすることによって、実臨床に役立つシンポジウムを目指してまいります。